

『さがを誇りに思う教育』

～ 古代の鑄造技術について ～

令和2年12月14日（月）

佐賀県立博物館

美術館学芸課 細川 金也 先生

『さがを誇りに思う教育』ということで、佐賀の金属の利用及び生産が始まった歴史について、鑄造技術の変遷とともに講演していただきました。

戦いの時代の中で発達し利用された金属は、弥生時代、日本に伝わりました。朝鮮半島から渡ってきた人々の鑄造技術によって、利用・生産されるようになったとあり、【青銅】弥生時代中期前半【鉄】弥生時代中期に伝わったとされています。

佐賀では利用・生産を弥生時代中期初頭に始めたとされています。全県各地に弥生時代の青銅器生産を開始した頃の遺跡が多く遺っています。また、佐賀でつくられた青銅器の一部は九州だけでなく中国地方にも運ばれていたことが分かっています。

この佐賀の鑄造技術は、日本の金属利用の黎明期と重なっています。日本において最先端の技術を有していたことがよくわかる講演でした。

